

経営理念	教育目標 すこやか やすっこ げんきなこ 経営目標 『幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培う幼稚園』をめざす 〈子ども像〉○友達と仲良く遊べる子ども ○たくましいからだの子ども ○きまりや約束の守れる子ども ○思いやりのある子ども ○よく考え工夫する子ども 〈幼稚園像〉○子どもがいきいきのびのび楽しく生活する幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や創造性が身につく幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉○幼児の心に寄り添い、共に行動できる教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○幼児の意欲、可能性を引き出す教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師
------	--

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	○ 幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育てる。	① 日々の保育を振り返り記録をもとに評価・反省を行いよりよい保育を実践する。	毎月の指導計画を職員間で共通理解ができた。また、週日案を作成し評価、反省を記録することもできた。終礼時、その日の子どもの姿は話題にするが、保育のねらいに対しての振り返りや明日の保育につながる話し合いが不十分だったため、職員の気づきを記録に反映することができなかった。	B	時間があるようではなかなか確保できない現状があると思う。毎週でなくてもねらいに即した話し合いができる機会を増やせると良いと思う。	B	時間を有効に活用し、その日の保育に対するねらいに対しての振り返りや環境・援助について職員間で共有し、話し合ったことを記録に残し、明日の保育へと反映させていけるように努める。
	② 自己発揮しながら、友達との関わりが深まるような環境を工夫する。	子どもたちは、保育者が用意した教材で友達や保育者と一緒に考えたり、工夫したりして遊ぶことができた。一人一人の発達を捉え、発達や興味・関心に合った教材の準備や環境の再構成を工夫していくことはまだ、十分でなかった。	C	子どもたちは、今ある環境の中で工夫して遊ぶことはできていると思う。どのような環境や教材であっても、子どもが自ら考える力を伸ばしていくとよいのではないかと。また、子どものアイデアを大事にし、学びへと繋げていくこともできる。	B	子どもが考え、工夫したり試したりする遊びが十分にできるように、発達や子どもの興味・関心に合った教材や用具を職員間で話し合い、教材研究を行っていく。保育室や園庭の環境について学び合い、用具の見直しや環境の再構成についても研究を進めていく。	
	② 一人一人の子どもの特性や発達に適した援助を行う。	ティーチャーズトレーニング研修で学んだことを実践することで、職員間で一人一人の子どもの特性や発達、どう関わり支援したのか支援方法を共有することができ、同じ対応や関わりができるようになった。好ましい行動をほめることに目を向けることができるようになった教職員が75%以上。	A	研修を受けることにより、先生方の意識が変わったことは評価できる。指導者が人として成長していくことが、子どもの幸せにつながると思う。預かり保育の先生との共有でさらに取組を進めていただきたい。	A	預かり保育の職員に研修で学んだ支援方法を伝え、子どもの行動理解や対応について全職員で共通理解し、継続して行っていく。	
充実した教育課程	○ 園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員が互いに協働する風通しの良い幼稚園を構築する。	① 防災対策と安全教育の向上に一層努める。	年間を通して様々な災害を想定した訓練を行うことができた。特に今年度は子どもを避難させた後、救助や連絡を取り合う等園全体の動きを意識して行動できた。「園は防災教育や園舎環境などの安全対策に取り組んでいる」という問いにそう思うと答えた保護者が72.4%。避難訓練の様子や避難経路、避難後の過ごし方等検討を繰り返しているが、園での取組を発信することが不十分だった。	B	町P連を通じて、行政の方と一緒に訓練できたことは、本当に良かったと思う。今後は引き渡し訓練や状況に応じた訓練も必要かと思う。保護者・行政の方、地域住民と一緒に合同避難訓練を実現させてください。	B	避難訓練の様子や園の取り組みなどを保護者に発信すると共に、保護者の防災意識を高めることができるような学習会を計画的に行う。避難した後の職員の動きもシミュレーションし、さらなる充実を図る。
	② 保幼小中の連携の充実に向け、子どもの育ちや学びをつなげる取り組みを充実させる。	小学校との交流活動は、お互いのねらいをもち事前事後の話し合いができた。小学校1年生と年間を通して、クラスだよりを見合うことで、お互いの学びや子どもの育ち、取組を知ることができた。研修会や事前事後の報告を職員間で共有できなかった。	B	年間通してクラスだよりを見合うことは良い取組だと思う。お互いのことを本当によく知る内容だと思うので継続していただきたい。交流も気軽にできると良いと思う。	B	連携に関する研修会や交流の実施案を検討、事前事後の報告を共有しながら、連携教育を充実させていく。引き続き幼小のおたよりを見合い、互いの学びや育ちを共通理解していく。	
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 保護者や地域に対して積極的に、情報発信を行い、保育の意図や子どもの育ちを共有する。	おたよりやクラス懇談、送迎時に職員が保護者に、子どもの育ちや保育内容を伝えることができた。行事後のアンケートからも子どもの成長を感じる感想が多く寄せられ、子どもの成長を共有できた。日々の保育の様子や成長がわかるおたよりや写真を玄関に掲示して知らせるタイミングが遅くなったことは課題である。	B	保護者のアンケート結果等から保護者との信頼関係が構築できていることが読み取れる。おたより作成については、あまり負担がかかりすぎないように、発信方法を工夫して欲しい。	B	保護者が知りたい内容になるように、継続して子どもたちが経験している活動だけでなく、学びを伝えていく。紙面の工夫をし、情報量が多すぎないように適時発信していくように努める。
	② 保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	手洗いに関しては、看護師の手洗い指導や絵本・紙芝居を通して必要性を伝えることで、自ら進んでできるようになった。保護者に対しても、ポスターの掲示やおたよりで発信でき、保護者の意識も高まっている。手指消毒やうがいには、子どもが自ら進んで行うことができるようになるための指導が不十分だった。	B	今後、コロナが2類から5類へ変わることで、あらゆる場面で感染予防が緩和され取組や予防方法が個人に委ねられ影響が出てくると考える。基本は今までと同じように、しっかり感染対策を行っていただきたい。	B	室内の感染に対する表示を季節ごとに整えたり、看護師と連携を取り合っ、感染対策に取り組んでいく。保護者に対しても引き続き感染対策の啓発を行っていく。	

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要